修学旅行新聞

発行所　財団法人
全国修学旅行研究協会
発行人　前田　寛
東京都千代田区西神田
2丁目8－7（幅ビル）
電話（262）2426・2932
振替（東京）6－36337

修学旅行は、学習を社会に移したもので、生活指導及び集団訓練の好機会であり、教育計画の一環として行う学校教育上極めて重要な行事である。

従って修学旅行を安全かつ有効に実施するための企画及び運営を科学的に調査研究して、常にその改善に努力しつつ教育効果の充実向上を図る事は必要であり教育界に課せられた責務でもある。

（財団法人　全国修学旅行研究協会の趣意書から）

第5回全国修学旅行研究大会

茨城の3中学校が研究発表

11月25日水戸で

みんなが創る修学旅行

財団法人全国修学旅行研究協会（山本種一理事長）と、関東地区公立中学校修学旅行委員会（成石昌蔵会長・川越市立川越第一中学校長）とが主催し、文部省ほかの後援による第五回全国修学旅行研究大会は、十一月二十五日、水戸市の茨城県民文化センターで開催し、全国から三百三十余名の教職員が参集し、県下三校の実践研究発表と、文部省教科調査官高橋哲夫氏の講演から深い感銘と適切な示唆を与えられ、修学旅行の全国的な研究活動に新しい一ページを加えた。

全国修学旅行研究大会は、㈶全修協が修学旅行の教育的水準の向上を促進するため推進してきた研究活動で、文部省、都道府県教育長協議会をはじめ、関係県・市教育長協議会の後援により、昭和五十九年度から継続して開催し、修学旅行の理論と実践を総合一体化する全国大会として、学校現場の期待は年々高まっている。今回は関東地区公立中学校修学旅行委員会の研究発表会を全国規模に拡大したものである。

第5回全国修学旅行研究大会
――みんなが創る修学旅行――
多数の参会者に感銘を与えた研究大会（茨城県民文化センター）

大会は十三時三十分、大川武氏（水戸市立第五中学校長）の司会の下に、大貫寿之氏（日立市立台原中学校長）が開会を宣し、主催者を代表して成石会長、山本理事長があいさつし、来賓として茨城県教育庁教育次長山口秀朗氏、水戸市教委教育長海野千秀氏、県校長会長加藤昭氏が祝辞を述べ、本日の講師である文部省初等中等教育局教科調査官高橋哲夫氏をはじめとする来賓の紹介があり、研究発表に移った。

研究発表は、山口崇氏（土浦市立土浦第五中学校長）、加瀬忠氏（水戸市立第四中学校長）の両氏の司会で進行し、次の三氏が発表を行った。

①土浦市立土浦第六中学校
宮本千代子教諭
「生徒自身の生徒の手による修学旅行―一年生からの校外学習の積み重ねによる実践を通して―」

②日立市立豊浦中学校
川上　徹教諭
「お互いを高め合うグループ別見学学習―集団育成（主として学年行事）の積み重ねを通して―」

③下館市立下館中学校
須藤和彦教諭
「生徒と教師がともにつくり、触れ、感じる修学旅行」

いずれも今年度実施の修学旅行について、一年生時からきめ細やかな様々の学習活動を積み重ねて周到に準備計画された経過を述べるとともに、それぞれ自校の特色溢れる修学旅行をビデオを用いながら的確に発表した。

三校の研究発表を通して共通的にうかがえることは、修学旅行という学校行事をとらえ、生徒の自主性を信頼し、計画から実施の段階まで、彼等の力を引き出す場を数々与え、最終的には大きな成就感を味わわせ、これで得た自信と感激をテコとして、その後の学校生活を一段と活性化し、充実させたとの事実である。

修学旅行の実施が、生徒や教師を刺激し、学校生活全般を向上させるカンフル剤的役割を果たしているさまに注目したい。

研究協議は時間に制約されたが、「大へん参考になった」などの感想が発表された。

県教育庁指導課長山形東道氏は「〃たかが修学旅行〃、しかし〃されど修学旅行〃と重要性を認識し、〃みんなが創る〃の主題の如く、可能な限り生徒の主体的活動を生かした教育的配慮を試み、一年生時のマイナス面を克服し、成功に導いたことは、三校とも高く評価できる。」と指導講評を述べた。

講演は文部省教科調査官高橋哲夫氏が「学習指導要領改訂の方向について」と題して、告示を目前に控えて最新情報を披露した。

十七時十五分、小山弘氏（茨城県中学校修学旅行委員会委員長・水戸市立第三中学校長）の閉会の辞をもって大会日程を終了した。

今回の全国大会は、実施母体である茨城県中学校修学旅行委員会（小山弘委員長）と茨城県学校長会（加藤昭会長・水戸市立第一中学校長）の組織的な研究態勢と、万全な計画準備に負うところが多く、研究主題である「みんなが創る修学旅行」の名にふさわしく、県下中学校の総力が石川敏夫前委員長（現県教育委員）の熱意を継承した小山委員長を核に結集し、見事大輪の花を咲かせたとの思いがひとしお深く感じられた。発表者をはじめ多くの舞台裏の諸先生のご努力に、頭が下がる思いである。

（発表・講演内容は2・3面に掲載）

次回の大会は大阪で開催

翌二十六日は、八時三十分から関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連合委員会（成石昌蔵会長）の臨時総会と、関東地区公立中学校修学旅行委員会第五回研究協議会の合同会議が開催され、前日の研究大会の総括を行い、来年度の第六回の全国大会は近畿地区（大阪）で開催することが決定された。

会議終了後前記両委員会の参加者は常陽明治記念館、徳川博物館、弘道館を見学し、水戸学の精神と幕末に思いをはせ、十三時三十分水戸駅で解散した。

全修協山本理事長叙勲

11月15日国立劇場で伝達式

財団法人全国修学旅行研究協会の山本種一理事長は、秋の叙勲において勲五等双光旭日章を受章、十一月十五日に行われた東京国立劇場での文部大臣からの伝達式、引き続いて皇居における拝謁にご夫妻で参列された。

▲喜びの山本理事長ご夫妻

第3回近畿地区中学校修学旅行研究発表大会

1月20日　京都で開催

「生徒の自主性を生かす修学旅行」をテーマに、京都市において「第三回近畿地区中学校修学旅行研究発表大会」を開催いたします。ふるってご参加下さい。

◇

一、主催　近畿地区公立中学校修学旅行委員会
財団法人全国修学旅行研究協会

二、日時　昭和六十四年一月二十日㈮受付開始十三時三十分、閉会十六時三十分

三、会場　京都駅南口前
京都アバンティホール

四、研究会次第
(1)研究発表
・生徒が自主的、意欲的にとりくむ修学旅行　京都府長岡京市立長岡第三中学校教諭　松宮　功氏
・生徒の自発性を促す修学旅行　滋賀県伊香郡高月中学校教諭　栗原重和氏
(2)研究協議
(3)指導助言
(4)講演
修学旅行の基本問題と今日的課題　㈶全国修学旅行研究協会大阪事務局修学旅行部長　北条直樹

五、連絡先　㈶全国修学旅行研究協会大阪事務局
〒541大阪市東区大川町淀屋橋南詰近鉄ビル四階
☎06・202・6500

全修協・各地区会議開催

64年度研修旅行の大綱を協議

㈶全国修学旅行研究協会の各地区会議は、近畿地区の十一月四日を皮切りに、東北地区十一月八日、北陸・東海地区十一月十八日、中四国・九州地区十二月二日、関東地区は十二月七日に開催された。

この会議は、全修協が教育研修企画主催をする教職員研修旅行の昭和六十四年度の大綱について協議するもので、教育界の優れた教育行事として定着発展してきた、この研修旅行の目的である〃歴史、文化、自然に接し自己研修による資質の向上、教育体験等による人間性の深化、教職員福祉による教育の生産性の向上、生涯学習の重要な機会の提供、長期休業期間（春、夏、冬休み）の有効な活用〃等をはかるため、企画において研修性の重視、元気回復等福祉の増進につながるコースの設定にねらいが定められている。

六十四年の特色としては、勤務実態等に即応した旅行期間、適正な会費などをベースに、春15コース、夏27コース、冬3コースが組まれ〃芭蕉・奥の細道旅立ち三百年〃を復元する「奥の細道」コース、〃小江戸川越に残る遺構〃から「春日局」と江戸文化に焦点を当てたコース、国際感覚涵養のため海外コースの充実など話題性もあり、いずれも研修性に富んだものである。

六十四年度は、六千五百名の先生方の参加を目標とし、最終的には全国教職員（百万名）の1%の参加をめざしている。

各地区、各支部では、広報活動の工夫と強化をはかり、この目標達成のため始動することとなった。

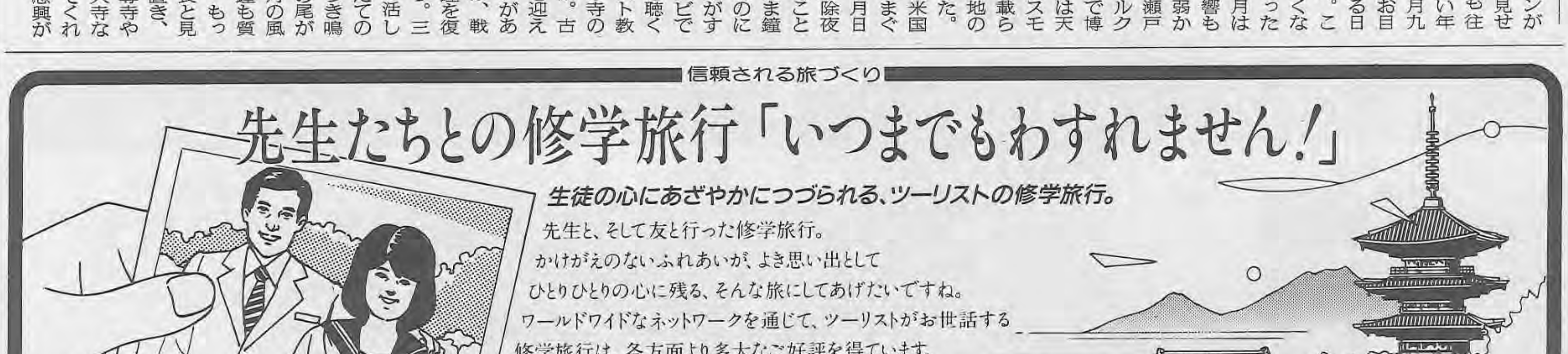
第30回総会・理事長叙勲祝賀会を開催

全修協

一　財団法人全国修学旅行研究協会の第三十回通常総会、引き続き山本理事長の叙勲祝賀会を、一月二十五日（水）都ホテル東京で開催する。

風紋

シクラメンが店頭に姿を見せると今年も往く。雨の多い年だった。八月九月は東日本では太陽にお目にかかれなかった。来る日も来る日もよく降った。こんなに降ったら雨が無くなるんじゃあないかと思ったら、案の定、十月十一月は晴天続き。作物への影響も大、紅葉も今一つ赤が弱かった▼青函トンネルと瀬戸大橋が開通、続いてシルクロード博を筆頭に各地で博覧会が花盛り。秋以降は天皇不快とリクルートコスモスの記事が新聞紙面に載らない日はなかった。各地のお祭りが自粛されもした。ソウルオリンピック、米国大統領選等々、内外めまぐるしい年でもあった▼月日は百代の過客、今年の除夜の鐘はどこの鐘を聞くことやら。旅の宿でたまたま鐘の音を聞くと忘れたものにめぐり会ったような気がする。大晦日の夜はテレビで全国あちこちの名鐘を聴くことが出来る。キリスト教会の鐘の響と百八つの寺のそれとは別趣な感懐か。古き年を送り新しい年を迎える鐘、さまざまな思いがあろう▼さてこの鐘だが、戦時中供出して新しい鐘を復活する寺が近年目立つ。三十三間堂の鐘楼も復活した。鐘の余韻も出来たてのころは短いが、朝夕つき鳴らしているうちに響の尾が長くなるそうだ。歳月の風化と撞木の鍛えとで鐘も質的に成長するらしい。もっともこのことが即成長と見るべきか否かはさて置き、修学旅行で訪ねた中尊寺や円覚寺、知恩院、東大寺などの鐘の音が聞こえてくれば、またひとしおの感興がわくことであろう。


信頼される旅づくり

先生たちとの修学旅行「いつまでもわすれません!」

生徒の心にあざやかにつづられる、ツーリストの修学旅行。

先生と、そして友と行った修学旅行。
かけがえのないふれあいが、よき思い出として
ひとりひとりの心に残る、そんな旅にしてあげたいですね。
ワールドワイドなネットワークを通じて、ツーリストがお世話する
修学旅行は、各方面より多大なご好評を得ています。
それぞれの教育方針に添った国内・海外の修学旅行なら、
なんなりと近畿日本ツーリストにご相談ください。

近畿日本ツーリスト　本社 〒101 東京都千代田区神田松永町19-2 ☎(03)255-7111(代)　支店 国内242ヵ所(登録) 海外13ヵ所
運輸大臣登録一般旅行業第20号

第5回全国修学旅行研究大会　講演要旨

学習指導要領改訂の方向について

文部省初等中等教育局教科調査官　**高橋　哲夫氏**

今回は最新の情報に基づき学習指導要領改訂の方向について述べる。

一、はじめに

先ず告示の時期は当初本年末と予定されていたが、諸般の事情で、来年一月末に「案」の発表があり、二月末に「告示」となる方向にある。

学習指導要領の改訂は従来小・中・高校と年を追って告示が行われたが、今回は三者一斉に告示がなされる気配である。

来年四月からの最大の課題は、改訂の趣旨を十分生かす移行のあり方で、小学校は昭和六十七年度、中学校は六十八年度から全面実施、高等学校は六十九年度から学年進行で実施されるが、それまでの移行期間中に内容的に生かされるもの、特に特別活動などは教科書を必要としないので、積極的にとり入れる方向で進めたい。そのため、指導書の作成も急いでいる。

二、今後の初等中等教育の重点

教育改革の一環であり、臨時教育審議会、教育課程審議会の答申がすべて盛り込まれ両者と表裏一体である。まず、教育改革の重点を初等中等教育に関して述べると次のとおりである。

(1)生涯学習への移行

生涯学習の基礎を身につける。学校での居住地の学習、居住地以外の学習(修学旅行)が、生涯にわたって行う他の地域の文化や人、自然の学習の仕方の基礎づくりとなり、そのことの上に国際理解も行われる。

(2)個性を生かす

今回の三先生の発表にもある通り、個を集めて衆知を生かし、集団の中で個を生かすことが大切であり、修学旅行にはこの機会が多分に含まれている。

(3)学校の役割を明確にする

学校はすべてを引き受けるのではなく、生徒指導における学校と家庭の果たす役割など、両者の分担を明確にし教育効果を高めたい。

(4)開かれた学校

地域の人材を活用する、修学旅行の地域学習など、地域の関係者の応援を求めたり、学校の教育活動を広く地域の人々にPRし、理解と協力を求めることが望ましい。

(5)徳育の充実

徳育は道徳教育のみでなく心の教育全般を示している。内容的には生活体験と人間関係を豊かにすることである。修学旅行は生活体験そのものであり、また寝食を共にするなど人間関係を豊かにする機会に恵まれており、正にうってつけの学校行事である。

三、特別活動の改訂の方向

今回の改訂の他の一つの特徴は、小・中・高校の一貫性を強く打ち出したことである。内容は勿論であるが形式的にも同じ事項であるなら同じ文言を使って記述してある。旅行・集団宿泊的行事など小・中・高校とも同一の説明文である。

1特別活動の目標

①小学校の目標の上に中・高校独自の目標を加える。中・高はほとんど同一である。②明解な表現を用いている。わかり易くし、誤解がないよう配慮している。③小学校では現行とほとんど変らない方向にある。④中学校には「人間としての生き方」及び「自己を生かす」が加えられる方向。⑤高校では「人間としての在り方生き方」が加えられる方向にある。

中学校では現行の「…自主的、実践的な態度を育てる」に「人間としての生き方の自覚を深め、自己を生かす能力を養う」が加わり、高校では中学校の人間としての生き方の前に「在り方」が加わる方向にある。

人間としての「在り方」は倫理的な面を示し所謂「ゾレン（sollen）」で、「生き方」は現実対応が主で「ザイン（sein）」であり、ありのままを大事にすることである。これは現在、中・高校で最大の課題である登校拒否等の学校不適応対策に通じる。

2特別活動の内容

(A)学級活動

●性格

説明の記述が加わり、「学級活動とは学級や学校生活の充実と向上を図り……健全な生活態度の育成に役立つような活動を行う」のような方向にある。

●内容

現在の学級会活動的な内容事項や学級指導のそれは、ほぼ残ると考えられるが、特に人間としての生き方を重視する観点からまとめられる。

●統合の意味について

内容事項の統合よりも、むしろ両者における生徒の活動の場を統合することに重点がある。基本的には、教師の適切な指導（計画）に基づいての生徒の活動計画が重視されることになる。

(B)生徒会活動　（省略）

(C)クラブ活動

内容的には現在の文化的な活動、体育的な活動、生産的な活動に「奉仕的な活動」が加わる。運用面では活動の形態や方法について、部活動による代替を認めることを含めて、学校裁量による弾力的な実施が十分にできるようになる方向である。

(D)学校行事

修学旅行に関連する事項について述べる。小学校は「遠足・集団宿泊的行事」、中学校では生徒の発達段階を考慮し、「旅行・集団宿泊的行事」となる。修学旅行は「旅行」と「集団宿泊」の二つの教育機能を併せて有し、また学業生活の集大成という固有の意義をもつものである。

──第5回──

全国修学旅行
研究大会

研究発表
─要旨─

生徒自身の生徒の手による修学旅行

茨城県土浦市立土浦第六中学校
宮本　千代子　教諭

修学旅行を実施するに当たって先ず考えたことは、どのような教育的価値があるか、という点である。

最近の修学旅行の傾向をみると、レジャー的方向に流されつつあると思う。

多大な経費と、長期間の計画によって実施される以上、教育的資質の見返りがなくてはならないと思う。

つまり、この活動は、校外に教育の場を求める点に教育の意義があり、平素と異なる生活環境の中にあって見聞を広め、望ましい体験を積むところに実施の価値があると考える。

本校第三学年の生徒は、一年の時の実態は、集団規律に乏しく、いろいろな場面において自分なりの判断をし、解決しようとする自己決定の能力に欠けていた。この点を重要視し、学年職員は一致団結し、集団行動の徹底を図った。

その方法の一つとして、第二学年の宿泊学習において一人ひとりの生徒の集団規律を身につけさせるため指導の強化を図った。生徒一人ひとりに活動の場をできるだけ多く与え、実際の場に追い込み判断力を育成させる配慮をした。その結果、一人ひとりに自覚が生まれ、少年期の土台が築かれた。この積み重ねの上に修学旅行を実施した。

本校は、修学旅行を、教育目標の「英知に優れ、豊かな心をもち、たくましく生きる生徒の育成」の具現化の総まとめの場と考えた。

主体性を伸ばす修学旅行のあり方を求めて、従来の修学旅行のベルトコンベア式の受身的なものから、生徒の活動をできるだけ広げて、責任ある行動と自己決定力を伸ばすことを願って、生徒をできるだけ前面に出す配慮をした。

その具体的方策として

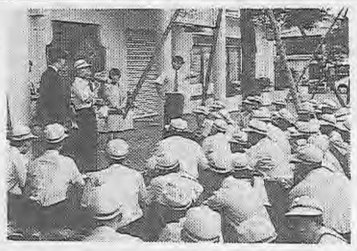
ア、見学場所を少なくしてゆとりをもたせた。

イ、シルクロード博の班行動を核にし、班内で助け合い自分たちの力で行動させた。

ウ、チェックを正確にし、計画した見学場所を完全にまわらせるようにした。

エ、係分担の仕事に責任をもつようにした。

オ、修学旅行委員会を結成し、集団のリーダーシップをとらせた。



出発を前に常磐線荒川沖駅集合

修学旅行を無事終えて、学校長をはじめ、我々教師団もやり遂げた満足感でいっぱいであった。

一人ひとりの生徒が実際の場で、目的をもって体験した数々は、今後のあらゆる場で生かされ、自信につながるものと考える。

「自分の足で歩いた。」という満足感は、実に大きな力となって一人ひとりの生徒にしっかりと定着したことを感じた。

「修学旅行の果たす役割」はここにあったのだと思う。

おわりに、修学旅行は、中学校生活の総仕上げと前記したが、その課題を見事に果たした。実行委員をリーダーとし、大集団を生徒自身の力によって主体的に動かしたこの修学旅行という舞台は、一人ひとりの生徒に自己決定を確かなものにし、なによりも自信を与えた。

一、二年生からの積み上げによって安心して生徒に任せることができ、無事に大事業を成し遂げたことはなによりであった。

日常生活においても基本的生活を重視し、一歩一歩積みあげてきた。その力が、修学旅行に立派に生かされた思いである。

現在の修学旅行は、レジャー的方向にエスカレートしつつあるが、やはり、教育的価値を見つめていきたいと思う。

◇

KANSAI KISEN
大阪・神戸 直行便 別府 さんふらわあ 12,000トン

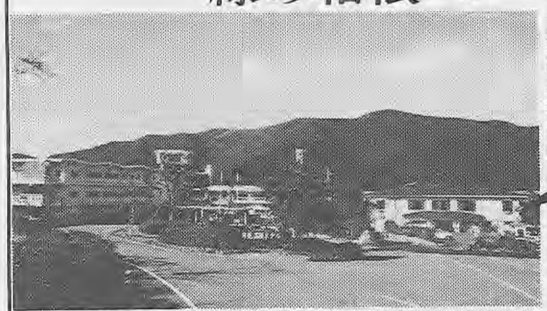
大阪南港 19.00発⇄8.20着 神戸中突堤 20.30発⇄6.50着 別府 8.00着 19.20発

信頼の船旅
関西汽船

営業本部営業課　大阪市北区梅田1-1　☎(06)344-7031
東京支社　東京都中央区八重洲1-4-14　☎(03)274-4273
及び各支店、営業所、旅行代理店へ

修学旅行に──
貸切専用外航純客船
さんふらわあ７ も
ご利用ください。

とびだせ自然へ
緑の箱根へ



レクチャーホール

〒250-05 神奈川県箱根町元箱根164
電話0460-4-8595(代表)
箱根高原ホテル

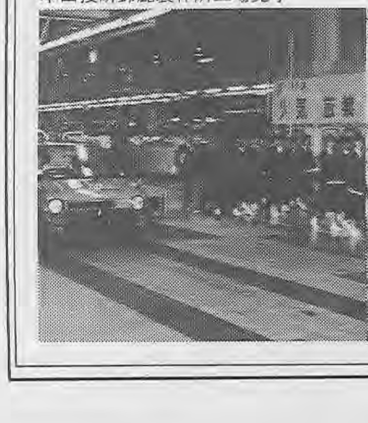
さわやかな奥日光の高原で素晴しい
修学旅行の一夜をお過し下さい。

そのほか
冬期はスキー教室
夏期は林間学校

奥日光高原ホテル
〒321-16
日光市湯元2549-6
（TEL）0288-62-2121代表

豊かな自然と、科学の調和
見て、触れて、試す体験の旅

本田技研鈴鹿製作所工場見学



地曳網

エンジン教室

潮干狩

体験学習のご案内
●地曳網 ●潮干狩 ●伊勢形紙彫り
●茶摘み ●テーブルマナー
●本田技研鈴鹿製作所工場見学
●エンジン教室

お問い合わせ・お申し込みは──
鈴鹿サーキット

〒510-02 三重県鈴鹿市稲生町7992 ☎(0593)78-1111